

会報 さわやか 21

第10号 令和3年 2月21日発行



熊本城復興の進行状況 その5

撮影者：炭谷健一



二十一期会

会長 岡田 英俊

令和二年さわやか二十一期会も結成九年目を迎えました。書面議決で始まった総代会から研修会、日帰り旅行、役員会などコロナの感染防止のため多くの行事が中止のやむなきに至りました。公共施設も閉鎖され、ようやく一月に役員会を実施しました。結局本年度は何もできずに終わりとなりそうです。ただ、会報だけは会員や会報委員の皆様の協力で発行することができました。各班の会合もままならない状況で、原稿集めに苦慮されたのではないかと感謝申し上げます。

ところで、上段の写真は前会長炭谷様が毎年同じ視点から熊本城復興の様子を撮ってもらったものです。会報の前号と比べていただき、復興の足跡を感じていただければと思います。最後になりましたが、コロナ禍の中会員各位健康に留意され、益々のご活躍を祈念します。

令和2年度の活動報告

事務局長 佐藤 テルミ

会計監査 令和2年4月2日(木)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に会場が無く、益城町の「みんなの家」を借りて監事の濱竹義継氏、緒方照美氏、会長、副会長、会計、事務局長の出席で、令和元年度の会計監査を行い全て承認。

3役会 令和2年4月2日(木)

会計監査終了後、引続き3役会を開催。コロナ禍の為に、総代会開催が難しく、「書面議決」を監事含め6名で決定。

総代会資料発送 4月3日(金)

「書面議決」書類一式を総代、理事、監事へ郵送。4月23日必着で過半数の賛成多数(賛成100%)を以って可決。

4月24日(金)総代会資料を「さわやか21期の会」会員の方々に配布。

第2回花菖蒲鑑賞会 6月15日(月)

今年も山都町の山崎邸をめざして総勢22名で花菖蒲鑑賞に出かけました。途中、高森で野草園、上色見熊野座神社、

穿戸岩、高森殿の杉を見学し、大きい厚揚げの豆腐料理店で昼食を。花菖蒲は今年も見事に咲き、コロナで沈んでいた気持ちがお天気と同じく明るく晴れました。山崎さんの奥様にも大変お世話になりました。ありがとうございます。次回も楽しみにしています。



◎総代会のご案内と
次年度会費納入のお願い
会員各位におかれましては、日頃よりOB会活動にご尽力、ご協力をいただき誠にありがとうございます。



第25回各期連絡協議会 8月25日(火)

福祉センター5階にて、岡田会長、佐藤

の2名出席。例年5月開催がコロナの為に8月に。会員数は639名で会長は24期

の太田勝信氏、25期退会の為に2年連続

21期は45名加入、今年度のパートナーシップ講演会と熊本城マラソンボランティアはコロナの為に中止。

第5回役員会・会報委員会 11月26日(木)

(第一・二・三・四回役員会は中止)

1月以来の役員会、令和3年1月7日(木)新年祝賀会開催を決定。しかし県

のリスクレベル5「厳戒警報」で中止。

コロナの為に殆どの行事が中止で残念。令和3年は明るい年になりますように。

尚、総代会当日やむを得ない事情でご欠席の理事及び総代各位は、必ず「委任状」を各班長又は会長へ期日までに提出ください。

『会費納入』令和3年度のOB会費(年千五百円)は、納入期限日3月31日(水)迄に各班長へ納入いただきますよう何卒よろしくお願い致します。

時節柄、会員各位のご健勝をご祈念いたします。



特別寄稿

神武天皇塚を探して

八班 山崎 典義

令和2年、西暦二〇二〇年、皇紀二六八〇年の今年も、気が付けばもう四月半ばである。つい先日まで道の両側には白や黄色の水仙が遠くまで咲き誇り、また、元気な子供たちに微笑みかけるように咲いていた桜の花も今ももう葉桜となって・・・

散るさくら 残る桜も ちる桜

そのような日々の中、以前から気になっていたことがあった。それは、今住んでいる旧蘇陽町のこの山間部に「塩」と付く集落がどうして存在しているのか？という単純な疑問である。「塩原」「塩出迫」「斗塩」とわが家の近くには三か所もあるのだ。海に近いわけでもなく、また塩を船で運んで来る川があるわけでもなく。

近所で聞いたたり、知人に聞いたたりし

たが答えは出てこない。そんな時、山仲間から思いがけない話を聞いた。それは「斗塩」バス停から山道を登っていくと誰かわからないが偉い人の墓？があるらしいと。それから「塩」の付く集落のことから、「墓？」探しへと方向転換をして毎日の天候と時間を見てはその周辺を歩き続けた。住民に聞くと思っても過疎化が進んだ地区では人に会うのも難しい。いろんな山道や畦道を歩いては引き返しの連続で手掛かりとなるような表示物もない。

その日は天気も良く、自宅から十分ほど歩いて山道に入った。軽自動車はやつと通れる道幅に加え、大小の枯れ木や石などを避けながら歩く。どこか遠くで木を切る音が聞こえてきた。「誰か居るな？」足を速めて歩く。すると高齢の男性が畏にかかった猪と悪戦苦闘中であり、猪の片足と繋がっている木の上部を切っている最中であつた。また、近くには雄の鹿もかかつていて軽トラックに積み込むことを手伝

うなど、経験と興奮は一生記憶に残るだろう。

作業が一段落したところで、「墓？」のことを聞いたところ数十メートル先を指差して、「右側に小さな階段があり、

上がっていくと何か書いてあるものが立っている。」とのこと、直ぐその場所へ向かった。



そこには

神武天皇塚 諱(実名)彦火火出見

由緒

○右上の鳥居を上った中央の方墳

神武天皇は七度、日の宮幣立神宮

に行幸（参宮）になり、その遺品をこの奥の丘に鎮め祭ったので神武天皇塚の名が残った。

○この丘の中央

母 玉依姫、聖の皇子を産むために、不知火の永尾にご上陸になり、ご神火燃ゆる阿蘇日の宮の斗塩で彦火火出見をお産みになった。この時のえなを鎮め、母性愛から玉依姫も一緒に守り神になられた。

○毎年四月三日、午前十一時に神武天皇祭を執り行う。
と書いた木製の碑が立っていた。



冒頭でも述べたが今年は、初代神武天皇即位から二六八〇年になり、今上天皇も第一二六代天皇として、昨年五月に皇位を継承し即位された。

このような歴史や神話が近くに存在し、私が生まれ育った不知火町にも関係していることを思うと何か心の中に嬉しさを感じざるを得ない。加えて子供のころ第十二代景行天皇が巡幸の折、「怪火 不知火」を地元民に尋ねてそれを目印に船を進めたとのことを当時の先生から聞いたことも思い出した。二人の天皇を身近に感じながら歳を重ねてくると、関心や興味もなかった歴史や神話、そして神仏等に何故か・・・

二十一期会の皆さん！

身近なところに思いがけない

宝の場所があるかも？

人吉・球磨豪雨災害

ボランティアに参加して

二班 續 フク子

7月初めに発生した豪雨災害・・・数十年に一度の大雨など、連日新聞やテレビなどで災害の状況が報道されていました。テレビで、ボランティアの方々がスコップで泥を掻き出したり、家具などを運び出すのを見て、私にも「何か出来ることはないか？」「お手伝いしたい」と思う気持ちでいっぱいになりました。

そんな時、熊本市市民活動支援センター「あいぽーと」で災害ボランティア事前説明会が開催されることを知り早速申し込みました。講座では、情報収集・服装・装備・持ち物・ボランティア保険への加入などを学びました。ボランティアに参加したいの思いもありましたが、一人では不安だし、行



けないと思っていた時、人吉・球磨災害ボランティア募集のチラシが目に入り、「行こう!」と決心してフアックスし応募しました。

翌日「あいぽーと」スタッフより電話がありましたが、少し不安になり「私にも出来ることがありますか?」と聞くと「ありますよ!」と心強い返事、「一緒に行きましょう!」その言葉で行くことに決定しました。

九月十一日

申込者十名と一般申込者十名を乗せた「災害ボランティアバス」は桜町バスターミナルを午前七時に出発し、受け入れ基地である「球磨ボランティアサテライト」に向かいました。

球磨地区に近づくにつれて道路の端には瓦礫が散乱していて、木の幹の途中には漂流物がぶら下がっていたり、こんな高いところまで増水・・・豪雨災害の凄さを目の当たりにして啞然として言葉が出ませんでした。

この日一緒に活動する「あいぽーと」からの参加者は、別のマイクロバスに



球磨サテライトにて

乗り換えて神瀬福祉センターに到着。外には重機数台が置いてあり、物々しい雰囲気でした。

男性の方は、泥の描き出しや、危険物を取り除く作業など、私達女性三人は、調理室にある食器や調理器具の仕上げ洗いでした。スポンジ、タワシ、歯ブラシなどで洗うと、いっぱい泥が付いていて・・・一生懸命洗いました。

不思議と疲れは感じず、「この感覚はなんだろう?」と思いながら時間の経つのを忘れ、黙々と洗い続けました。

今まで参加されたボランティアの人たちのリレーにより、泥の中から取り出された食器類が洗われ、また洗われその後の仕上げ洗い。

担当の方が終了を知らせに来て、『エッ!こんなに沢山。ありがとうございませう!』と笑顔。私達も、周りに居る人達もみんな笑顔!

九月二十五日

二回目の参加は個人のお宅でした。

壁の中の胴縁、床の下の根太（ねだ）

に張り付いている乾いた泥を、タワシ

でブラッシングしてとる作業。ひたす

らブラッシングして・・・落とす。

ボランティア担当者に聞いたところ、

ブラッシング終了後は、消毒してリフ

ォームするとのことでした。

被災された方々が、一日も早く平穩

な生活を取り戻されることを祈りなが

ら帰路につきました。

私としてはささやかな活動でしたが、

お手伝いできたことを嬉しく思いまし

た。

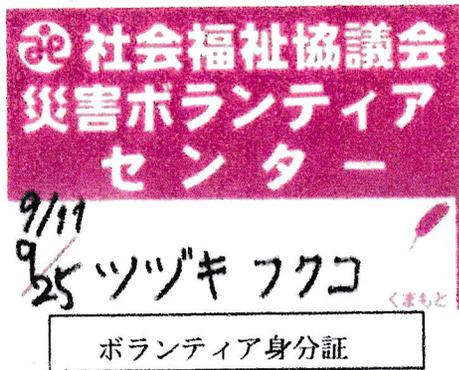
そして、私たちの

「小さな」

一人ひとりの行動が集まって

「大きな力となり」

復旧・復興に生かされることを願って
います。



時間に 感謝

心も体も充実できる

ボランティア

新たな自分を再発見

ボランティア

令和2年7月熊本豪雨

豪雨の概要 線状降水帯の長時間にわたる停滞

7月3日23時頃から4日10時頃までの11時間

降水量 24時間で7月の約1ヶ月分に相当

(雨量463.5mm・・・観測史上1位)

アメダス総降水量(7月3日～4日・48時間)

湯前横谷 497.0mm

山江 468.5mm

あさぎり町上 466.5mm

一勝地 470.5mm

被害の概要(8月19日現在)

人的被害

死者65人

行方不明2人

住家被害

全壊217棟

半壊458棟

床上浸水5,830棟

公共土木被害額

県内合計1,452億円

二回目の花菖蒲鑑賞会

昨年と同様に、八班の山崎さんから花菖蒲鑑賞のお誘いがあり、事務局主催で六月十五日に開催した。集合場所は「あいぽー」と駐車場とし、車三台、宮崎号、笠号、佐藤号に分乗し出発した。

萌の里で岡田会長ご夫妻、池添さん達と合流し、阿蘇野草園へと向かった。此処では珍しい草花を見て、奇岩で有名な、穿戸岩へと車を走らせた。長い石段を登り、途中の上色見熊野座神社を参拝し、その上の穿戸岩へと向かった。山の頂にある奇岩は、中が空洞に成っており、風通しの良い場所でした。



息を切らしながら登った階段でしたが下りは、隣の車道の坂道を筋肉痛に耐えながら、やっと降り立ちました。筋肉痛は、二、三日続きました。

昼食は豆腐料理の店で、優しい味の料理を堪能し、お腹を満たしました。大豆を材料とした、厚揚げ、豆腐、呉汁など体に優しい物ばかりでした。

次は高森殿の杉を見に行きました。

此処の杉も樹齢千年を越えるもので、二本並んで生えており、その太さと枝振りの異様さに、圧倒されました。近くを通られる時は、一見の価値はあると思います。



ようやく山都町の花菖蒲園に到着し、山崎邸の駐車場に車を置き、田中さんご夫婦と合流し、花菖蒲園へと向かいました。畑一面の花菖蒲は私達を歓迎してくれるかのように咲き誇り、自粛

疲れの心を和ませてくれました。

一角では、多目的トイレの話題を、爆笑付きで解説され、笑いの渦が湧きました。お花と和やかな会話の後は、山崎さんご夫妻にお茶の接待をして頂きました。前日の豪雨の中を、除草、摘花、と遅くまで準備された由、更にトマト、らっきょうの手配迄して頂き、心遣いに感謝するばかりでした。

お陰で今回はご夫婦での参加もあり総勢二十二名でした。

次回もご夫婦でのご参加を歓迎致し、多数のご参加をお持ちしております。



四 班

コロナ禍に於ける四班員の動向

水島 輝夫

四班員同士の触れ合いについて、ここ二、三年の状況を振り返ってみれば、役員会の開催日に併せ当班は集合し、案件を確認したうえ、食事会をしているのみでした。そんなことで、四班員だけの単独活動は何処かに出掛ける



でもなく、この時点で既に淋しいものでした。されど、二十一期OB会が行うあらゆる行事への参加は、どの班にも負けないものである

り、一例を挙げれば、公開講座をはじめパークゴルフやカラオケ、ウクレレ同好会それに山歩き愛好会等々。より多くの当班員が参加し、夫々に楽しんでいました。

ところが、それどころではない厄介なコロナ禍により、これまでの二年度の事業計画が全て延期や中止となっています。したがってそれに沿って活動していた当班員は一度も寄り添うことなく、全く眠った状態になりました。

しかしながら、有難いことに二十一期OB生の有志の方が、初夏には花菖蒲園の見学で阿蘇方面のツアーや、初冬には万日山・仏舍利塔の散策に声を掛けていただきましたので当班員の多くは参加でき、とつても楽しむことができました。おつて、この件については、立案された方が会報誌に投稿されることでしょうかから楽しみにしています。

それでは、会報誌のネタ不足にも拘わらず、班員から二題の投稿があまり

したので意を汲んでいただき、拝読願えれば幸甚と思うところです。

楽しからずやグラウンドゴルフ

井芹 喜久子

私の班の会報委員から、会報誌十号の発刊にあたり、投稿依頼がありましたので、今、楽しんでいるグラウンドゴルフ（以下「G・G」と表示）についてでも、手紙風を書いてみることにしました。

それでは、まず二十一期OB会の新春祝賀会が令和二年一月九日御船町「華ほたる」で行われた際、宴会のみならずG・Gに試合が組み込まれてあつて、男女二十一名の並み居る参加者の中、なんと私が優勝したのです。スコアは決して満足するものではありませんでしたが、ホールインワンが出たことで良い結果をもたらしたのでしよう。宴会の席で会長から表彰がありましたので、とても気持ち良い美酒となりました。ここで、私とG・Gとの関

わりについて記してみましよう。私がG・Gと出会ったのは、もう十数年前になります。ホームグラウンドである城南温泉のコースに行つてプレイするのですが、芝生の上でボールを打つ爽快感、狙ったホールポストに一発で入った時の嬉しさ、歩き回ることで結構な運動量となり心地良い疲れを感じています。こんなことで、すっかりG・Gに嵌ってしまったのです。



現在は、地域のクラブに入り、平均年齢七十八歳で八十余名ほどの大勢の仲間と週三回プレイを楽しんでいるところです。熊日新聞の「みんなのスポーツ」欄に大々的にあちこちでの大会結果が掲載されているのを見ると、G・Gの良さは高齢者の運動不足、ストレス解消、そして仲間との交流や、健康維持のためにも適している素晴らしいスポーツだと思えます。G・Gは高齢者のスポーツに最適であり、これ



からも一段とブーム到来になることでしょう。
まさしく私にとって「グラウンドゴルフは楽しからずや」となっています。

ちっちゃなレポート

十万元の使い道

四班会報委員

コロナ禍による支援金として給付金が一人十万元支給されましたね。そこで、当班員はどぎゃん使わしたっだらか問うてみた。御三方から返答あり！

(男 S・M)

「ひとんころは二転三転しとったばってん、一人に十万元給付すつと落ち着いたごたるばってん、ほんなこつたらか！青天の霹靂だわ？ どぎゃんすつと」と家内が話してこらしたばってん、いざ手にすつとしゃが「小出しに使うてしまつた」と。もう赤字のように上手く逃げて振る舞わすばってん

が、世帯主からすつとしゃが、まあだあつとじゃなかるうかと踏んどつとたい。そのうちGO・TOトラベルなつと利用して家内と旅行なつととして喜ばせてやろうと考えとつとたい。

(女 K・I)

ちようど車検の時期でしたので、その支払い費用に使いました。

(男 T・M)

傘寿になつて身体の衰えは流石に否めない。そこで体調を維持することに健康診断の諸費用に十万円を使うこととした。手始めに胃ガン検診のため胃カメラの検査を終え、次に歯の治療や大腸ガン検査を無事にクリアしたうえ、さわやか大学校二十一期生OBの皆さんと健やかに一献傾ける日が来ることを心待ちにしている。

“コロナよコロナ。君はどのワクチンに弱いのか”

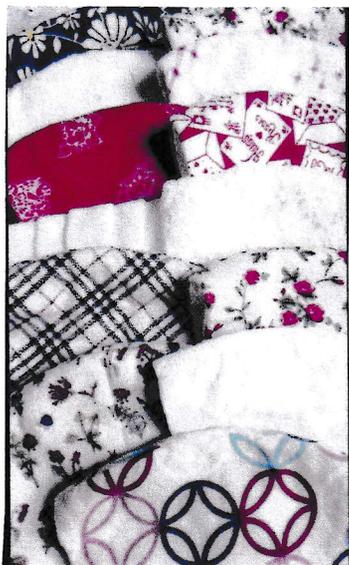
私達のステイ・ホーム 5班

私のステイ・ホーム

坂本加代子

ステイ・ホームになつて始めたことは、マスク作りです。パートで働いている病院で「そろそろマスクが底を着きそうなので、大事に使つて！」とのこと・・・私のいる栄養課は十二人です。職場の十二枚から始まつて、いろんな色、柄物でマスクが出来上がるとたのしくなり、家族、友人、親戚あるいは知人へと、マスク作りが広がっていききました。

マスク作りに夢中になつている頃、



「マスクプロジェクト」を知り、早速それに参加しました。一口二十枚を、二口郵送しました。数か月後に二万円ゲットすることができました。今までに全部で百二十枚、百三十枚は作つたと思います。

葦ペン画との出会い

杉山 光延

今から二十六年前の平成六年秋に発行された荒尾市広報誌に水彩画(葦ペン画)教室の募集案内があり、葦ペンで描く絵はどんなものか興味を抱き参加したのが葦ペン画との最初の出会いです。教室には、見ず知らずの老若男女二十人ほどが参加し、早速先生から説明があり、ペンに使用する葦は河原に自生するもので茎を採取し、二十センチメートルぐらいの長さにしてカッターナイフでGペン型に整形し、インク(油性で製図用墨)を使用し、スケッチブックに直接ペンで下書きをし、色彩用筆を使用して水彩絵具で色づけ

し完成させるのが、葦ペン画です。
 早速先生が自ら製作された葦ペンを
 借用し、静物、風景等を描いてみると、
 ペンの握り方、インクの含み具合、ペ
 ン先の角度・方向・筆圧、かすれ等が
 面白く夢中で描き始めました。先生は、
 元小・中学校の美術教師で、「絵は形を
 描くのではなく、心で描くことで一人
 一人の個性があるから面白いし、個人



の可能性や発想に感動するので、杓子
 定規にはめてしまっってはかわいそう
 だ。」と語られ、自由で和やかな雰囲気
 の教室でした。教室は三か月で終了し、
 引き続きサークル活動として今日まで
 継続しています。今は亡き先生ですが、
 人との出会い、素晴らしい可能性を引
 き出すのが、私の役目と常々言われ二
 十年近く教えていただきました。

このような先生との出会いに感謝し
 ながら、今日まで葦ペンを握り描き続
 けています。これからも人との出会い
 を大切に、自分なりの葦ペン画に挑戦
 していきたいと思っています。

葦ペンは、この先の人生いつまでお
 付き合いできるのだろうか・・・。

桜の季節に

隅田 伸子

今年の春は、今までにない楽しい
 日々を過ごした。

予定していた京都や屋久島の旅行がキ
 ャンセルになり、新型コロナウイルスの感染が

怖くて、あまり外出もしなかった。
 桜の花が咲くと、友達とウォーキン
 グ。少し遠出して新緑の立田山、花岡
 山、小萩山、弁天山、本妙寺山など、
 途中、バス・電車に乗って歩いた。



ツクシ、菜の花、
 三つ葉、蕨、セリ、
 クレソンと自然の香
 りと恵に感謝し、筍
 を見つけ、いろんな
 桜の花を見て歩き、
 桜の葉を塩漬け。五
 月の節句は孫達も手
 伝って桜餅を作り、
 楽しい食事会となっ

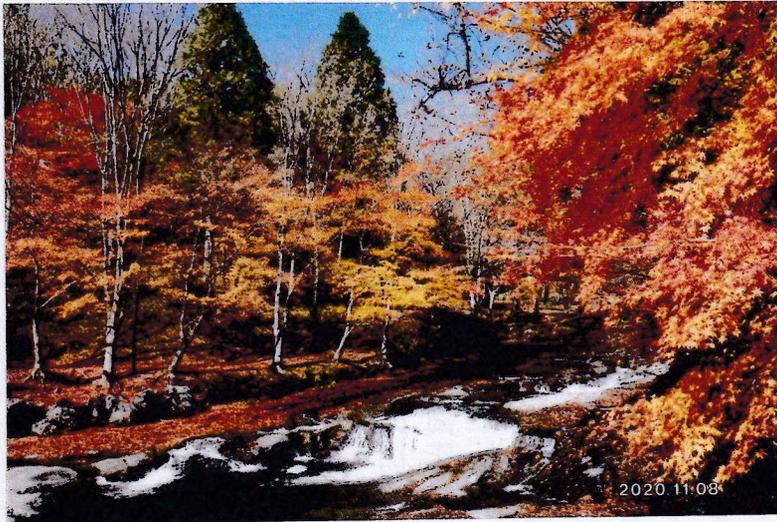
た。
友達と拾った竹の皮で中華ちまきを包み、蒸してみんなで食べたり、いろんな災害が続く中でも、自然は美しい花を咲かせ、新緑に元気をもらい、「幸せは近くにある！」そう思った春だった。

ウィズコロナ！

炭谷 健一

ロックダウン、バンデミック、オーバースhoot、クラスター、ステイホーム、ソーシャルディスタンス、テレワーク、リモート、オンライン会議、PCR検査、医療アラート、ワークション等々のワード。令和二年の新年を迎えて早々「新型コロナウイルス」という文字と共に見聞しない日はない。中国武漢が発生源と言われていて、非常に感染力が強く、致死率も高いこのウイルスが、あつという間に世界中に猛威を奮って、感染拡大中である。熊本県内で最初に確認されたのは熊本市

内で二月二十一日だった。そして、この原稿を書いている十一月中旬には、県内で九百三十名を突破して、日々増



加傾向で衰えていない。唯一、国内で感染者未確認であった岩手県内でも、七月二十九日に患者が確認されて以来、

八十六名（十一月十七日現在）と、現在、全国的に第3波と言われているが、患者が増加中であることが、憂慮されている。見えない敵だけに気が抜けず「ウィズコロナ！」と言うものの自衛するしかない。マスク着用・三密を避ける等、基本的なことを徹底遵守するのみ。

ところで、ハワイアンバンドで老健施設等へのボランティア活動も、各種イベント等への出演機会もほとんどなくなってしまう、淋しくなってしまうました。早くコロナが終息してくれればと願うばかりです。

また、大人しくしておれない性格なので、しばらく休んでいたカメラの趣味を再開し、季節を追って、あちこち撮影に出掛けている。九月から阿蘇谷の雲海の写真撮影に早朝四時頃に家を出て、ミルクロード沿いの「カプト岩」から「大観峰」辺りで撮影。そして、この十一月は、紅葉の時期で、小国方面や南阿蘇、大分県竹田市の岡城跡、

豊後大野市の用作公園等への撮影と、久しぶりに写欲が沸き、自然界と向き合って現を抜かしていききたいと思っている。

「屋外での写真撮影!」、当面、これが私の「ウィズコロナ!」である。

私のおうち時間

山岡さちよ

コロナの流行で、いろいろな活動が休みとなる中、着物のリメイクを習っている友達から、帽子の作り方を教わりました。

母の着物を解いて、洗い、アイロンを掛け、……。自分で帽子が作れると



は思ってもいなかったので、出来上がった時はとても嬉しかったです。

それに気を良くして、姉や妹の分も作ったり、また本を見ながら、ポシェットやズボンも作ってみました。着物の生地が薄くなつていてズボンのお尻が破れてしまったりと、ハプニングもあつたけれど、コロナ前は考えられなかった、有り余る「おうち時間」が有意義に過ごせました。

雑感

山口 哲廣

熊本地震で四年半寸断されていた国道五七号線、そして豊肥本線の復旧にご支援ありがとうございます。阿蘇の基幹産業は「農業と観光」です。農業は、会友の皆さんの年齢では無理でしょうから、政府主催の?GO・TOTOラベルでの楽しみを是非阿蘇に持つてきてください。ところで、旧阿蘇町史によると、豊肥本線は熊本・大分間百四十八キロメートル。熊本駅の開業

は明治二十四年、大分駅の開業は明治四十四年だそうです。因みに、宮地駅の開業は大正七年一月で、熊本駅から



の所要時間は二時間四十五分もかかったそうです。また、

当時の物資輸送は荷馬車が主で、明治四十三年十月には大津から宮地駅

まで二人引きの人力車で当時の鉄道総裁後藤新平が来たとのこと。

当時の豊肥本線は熊本・大分両県の経済発展のため是非とも必要な鉄路であり、物流も盛んであったと思われま

すが、現在は、自動車による物流が主
なようです。今後コロナ禍で、将来在
宅勤務やオンライン授業が定着すれば
鉄路の疲弊が更に考えられます。
インバウンドとか外国人観光に加え、
会友の皆様のご支援を是非阿蘇の更生
に！

模範的な自粛生活？

笠 學

自粛生活を始めるにあたって怠惰な
日常とならないために、絵を描くこと
と本を読むことを生活規範の一つとし
た。

今まで五班の皆さんと葦ペン画を描
いていたため、庭に咲いた花や犬の散
歩の際見かける風景などを何ら苦にす
ることなく、これまで週一枚のペース
で描き続けている。読書は、昨年から
読んでいた「東野圭吾」の作品を三月
にはほとんど読み終えたので、その後
は「今野敏」の任侠シリーズを読み始
め、今では「今野敏」や「横関大」の

警察関係を題材にした作品を読んでい
る。

天候不順で延び延びになっていた肥
後花菖蒲の株分けを六月下旬から始め
たところ、異常な暑さ続きで尿酸値が
急上昇して「痛風」を発症した。その
ため七月からアルコール飲料は口にし
ていない。このような品行方正で真面
目な自粛生活を送っているの、今度
皆さんとお会いした際には「付き合い
難い堅物になったな！」と言われるの
ではないかと心配している。



*** ショート
見えない恐怖に怯えながらの自粛生活に
少しの笑いを！

*コロナウイルスが蔓延し始めた頃
巷で拾ったちよつといい話*

専業主婦「ドラッグストアにマスクを
買いに行ったんだけど、もう全然な
かったのよ。そこでガーゼとゴム紐
を買ってきて家族全員のマスクを作
り始めたの。最後に私の分を作りか
けたらゴム紐が足りなくなっただけ、
パンツのゴム紐を抜いてようやく完
成させたのよ。」

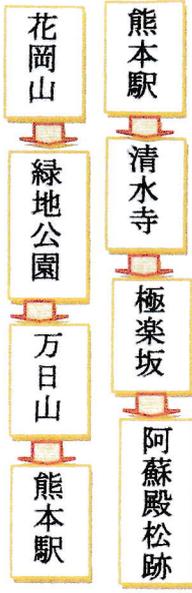
恋多き友人「あなた！ まだゴム紐が
抜けるパンツを穿いてるの？ 私は
両側とも紐のパンツを穿いてるから
マスクは作れないわね。」

(これは男には解らない話でしたね。
Mad. Dragon)

六・七・九班

万日山ハイキング 清島隆明

十月下旬の秋晴れの日曜日、熊本駅新幹線口（西口）に集まったのは、さわ大二十一期会旧山歩き愛好会メンバーを中心に八名。ハイキングコース（約7km）は以下の通り。



花岡山の東側裾野、祇園界隈には国府時代の名残のある社寺が多い。京から下ってきた国司たちは京を慕いこの地に祇園神社、清水寺、長谷寺、春日寺など京都・奈良ゆかりの名前を付けた多くの社寺を創建した。花岡山もかつては祇園山と呼ばれていた。

清水寺では、住職から寺の歴史、ご本尊について丁寧なお話をいただいた。八〇六年頃坂上田村麻呂の祈願所として六十余州に一寺ずつ建立されたうちのひとつのこと。一方、都から下向した国司たちによって、京都の清水寺が勧請されたとの説もある。

ちなみに、お隣の福岡の清水寺（紅葉

名勝地）は、八〇六年（熊本と同年）に唐から帰朝した「最澄」が創建したと伝わることから、熊本の「国司による京都清水寺の勧請説」もうなずけるところ。

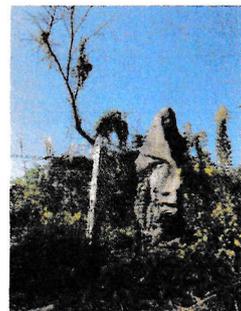
長谷寺は、天平年間（七二九〜七四九年）創建されたと伝えられているが、当時の住職が帰農したことにより明治七年（一八七四年）に清水寺に合併。

従って、長谷寺の「十一面観音菩薩」と清水寺の「千手観音菩薩」がご本尊となるが、十一面観音は、その名が示すようにに文字どおり十一の顔を持って一時に四方八方に目を向けて人々を救済する。さらに進化した千手観音は、十一の顔と千本の手を使ってあらゆる人々を救う力強い観音とのこと。

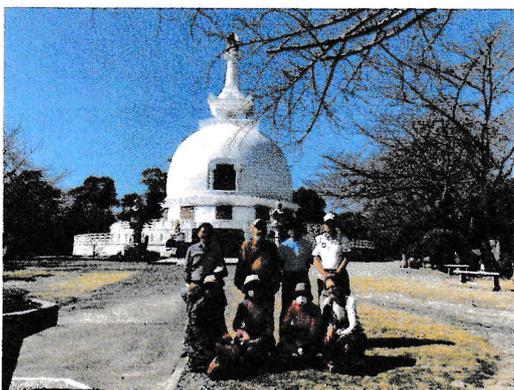
境内で実った銀杏を手土産に、清水寺を辞した。花岡山に向かって清水寺の北側を通る極楽坂から登る。住宅街の間を縫うように登る道路は思ったよりきつい坂道。地獄坂&極楽坂の看板のある地点で、地獄坂を覗くと急傾斜の階段坂。地獄坂は、加藤清正が熊本城築城の際、花岡山から切り出した石を運ぶ作業に使った道。当時、地獄坂を「まつで、地獄、地獄」と恐れ嘆いて昇り降りしたと伝わ

る。

ここで一旦車道に出て、阿蘇殿松へと。豊臣秀吉の命で、文禄二（一五九三）年、十二歳の惟光は故郷の阿蘇が見えるこの地で自刃したので、人々は彼を弔うために、その跡地に松を植え阿蘇殿松と呼んだ。今は松はなく、記念碑だけが哀史（あいし）を伝える。なお、大宮司阿蘇惟光の墓は1kmほど下った細工町の阿弥陀寺にある。



官軍墓地から山上まで階段が続く、胸突き八丁である。一六三段を登り、車道へ。トドメの一〇八段でゴール、そのま



ま山上の展望台ベンチに座り込む。熊本市街地を展望している間に全員がゴール。記念写真を撮り、仏舍利塔参拝。

花岡山は、

JR熊本駅の北西側に位置する標高132mの山で、金峰山の末端部が断層によって切り離されて形成されたと考えられている。

花岡山山頂から車道を少し下り、レストラン摩天楼からショートカット。段差の低い階段を下って行くと先の車道に出る。ラブホテル王国の前を通り抜け、車道から分岐した平坦な道路を南に向かい万日山へ。

緑地公園の春は桜が美しい、知る人ぞ知る桜の名所にもなっている。公園駐車場で休憩し、万日山山頂へ向う緩やかな坂道を進む。公園駐



車場から山頂までは1kmほど。途中には展望ポイントもあり、正面には熊本駅やくまもと森都心プラザ、北には熊

本城、東には遠くに阿蘇山を望むことができる。

山道の真ん中に像の形をした巨岩が露頭。



そこを通り抜けると目の前に山頂が見える。

万日山は、標高138mで、北の方面に繋がる花岡山よりわずかに高い山。

山頂から、金峰山が至近に見え、直下には熊本港が展望できる。広場はベンチが整備され、いつもは野鳥が餌を求めて飛び交っている。

全員がゴールし、持参の弁当を食べた。楽しみにしていた野鳥は、大勢で押し掛けたので警戒したのか、それとも時間が昼過ぎと遅かったからか、飛んでこなかった 😞

記念写

真を撮り、下山。熊本駅新幹線口にゴールし、コロナ禍で閉塞感にあるこの時期に万日山ハイキングで気が晴れた思いの一日であった。

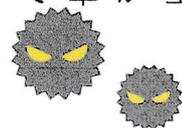


日々雑感

上田 昭徳

新型コロナについて

昨年末から、中国武漢を発生源とする新型コロナウイルスが全世界で流行し、日本では豪華客船の乗客の感染がニュースで大々的に報道されるようになった。



熊本でも看護士さんが第一号の感染者となり、既に千人を超える感染者が出ている。第一波が漸く収束に向かいつつあると思っていいたら、第二波、そして高止まりのまま第三波が襲来の模様。

収まる気配がない。欧米諸国では益々拡大の様相を呈している。まだまだ油断はできない。終息までには相当な時間を要するものと思われる。

考えてみると、このような疫病の流行は昔から繰り返されている。ヨーロッパではペストが中世期に大流行し、十四世紀には当時の世界人口四億五千万人の約二割にあたる一億人が死亡しており、第一次大戦時にはスペイン風邪により二千万〜四千万人の死者が出ている。

日本人は衛生観念が高いので、この新型ウイルスもそこそこ食い止めているように思うが、やはり、わが民族のDNA

は素晴らしいと思う。今後みなさん、用心に越したことはありません。気を付けましょう。

テレビについて

皆さんは自粛生活で、テレビを見られることが多いと思います。私はBSの番組をよく見ます。朝、番組表を見てビデオに収録しています。時代劇、西部劇、二・二・六事件などのドキュメンタリーや戦争映画などです。

また、NHKの新日本風土記という番組が好きでよく見ます。昔の映像も、バックの音楽も懐かしい感覚があります。松たか子のナレーションも良いし、腰の曲がった老夫婦が仲良く歩いていく風景は何とも言えずほのぼのとした味わいがあり、とてもいい。

その他、毎週土曜日の寅さんは欠かせません。若いころ映画館で見たシヨーンコネリーの007



をやっていました。や

はりカッコいいです。その他、結構面白い番組が多いですね。やはり、テレビはこれから娯楽の王様と思います。皆さんは、どんな番組を見て楽しまれていますか！

自然災害について

熊本地震から既に足かけ五年となり、人々の記憶もだんだん薄れていくなか、私の勤務する益城町も復旧工事が進み、役場仮設庁舎の横にも五階建ての災害復興住宅が建設され、住民の皆様が移り住んでおられますが、あまり姿を見かけません。それと、子供の声が聞こえない。やはり、高齢者が引きこもっておられるのでしょうか。何とも寂しい気がします。

その熊本地震の復興も漸く落ち着いてきたと思ったり、球磨川の氾濫による人吉、球磨、芦北地区を大水害が襲った。

災害は忘れたころにやっ



てくると昔からの諺が示すように、戦後七十五年を経て、人々が豊かになり、暖冷房は当たり前、今日、気候の温暖化で地球が悲鳴を上げている。我々が子供のころは冬は寒く、夏は暑くエアコンなどない時代であったが、それぐらいの生活

が実は程よいのではないかと思ったりもする。

古き良き時代を懐かしむ私もやはり齡をとったものか。(鶴田浩二の歌にもあったな!) それにしても、今回の水害は本当に大変なことで、被災者の皆さんの一日も早い復旧を只々祈るのみである。

さわやか二十一期会の皆さんについて
高齢化その他により人数も減ってはいるものの、役員の皆様のご尽力により、昨年も日帰り旅行を企画され、大変有り難いと思う。私などは何の役にも立たず、只々感謝するのみである。

初夏には高森の神社、蘇陽町の山崎さんの花シヨウブ畑の鑑賞に出かけ楽しい日帰り旅行ができた。行楽の秋には清島さんのお世話で、熊本駅発着で万日山のハイキングも男性四名、女性四名で楽しい一日を過ごしました。



これからも役員はじめ、皆様方のご健勝をお祈り致しますとともに、お互い健康で楽しい日々を過ごしましょう。

八班だより

山崎 典義

○プレバト川柳

八班では新型コロナウイルス感染拡大防止のため一堂に会することもなく、電話やメールで近況報告をしています。自分、家族、さわ大仲間、日本国民そして世界平和のためプレバト川柳を詠みました。才能ありは？ 凡人は？ 才能なしは？ 誰か！
宮原さんが八班に参加しました。よろしくネ。

〜笑って許して〜

- ・ コロコロナ コロコロコロナ
- ・ コロのバカ
- ・ 家に居る 家に居るとは
- ・ コロの神
- ・ (木野)

・ 危ないな カビノマスクに

十万円

・ 夢の中 濃厚接触 飛び起きた

(山崎)

・ アマビエよ コロナを連れて

帰ってよ

・ コロナには 乗りたくないよ

流行には

(高濱)

・ 外出禁止 机の上は 菓子袋

・ 武漢風邪 風吹くまゝに

世界旅

(鶴田)

・ 十万円 女房の頬を 緩ませる

・ 退職後 二十年もの

ステイホーム

(川崎)

・ 話したい 人に焦がれる

・ 歩こうよ 薬いらずに

なるように

(谷口)

・ コロナ禍で ハイタッチならぬ

ヒジタッチ

・ もう終わり コロナ トランプ

草紅葉

(宮原)



コロナウイルスを征伐!

一班だより

井手 由記子

新型コロナに翻弄され、身も心もち沈み憂鬱な毎日が続いていますが、私達一班は至って元気

一月には「さわやか21期会新年会」の担当班として、会を盛り上げ成功裡に終らせるとともに、

二月には山歩き愛好会の「荻の里温泉一泊旅行」に参加し、伝統ある竹田市内の名所旧跡を訪ね歩くとともに温泉で身体を癒しました。

七月には感染症予防のため、ソーシャルデスタンスを保つべく霧雨で煙る早朝の「浮島公園の東屋」で情緒豊かな風景を楽しみながら朝食を満喫、十月には、濃霧で視界が閉ざされた「阿蘇の草原」を車でひた走り、スリル満点のドライブを楽しんだ後、温泉

で心を癒し、

十一月には九州のグランドキャニオン「蘇陽峡」を始とする五ヶ瀬方面で紅葉狩りを行い、佐俣温泉の足湯で疲れを癒す等、

全員が我が年齢も忘れ、助け合いながら無理の無いイベントを楽しんでいます。



一班では会報への投稿希望者が多く、毎年選考に苦慮していますが、今回は、全会一致で知る人ぞ知る

- ・ 金峰山登山 四千回達成
- ・ 日本アルプス縦断
- ・ 四国遍路三回 等

数々の偉業を達成されている「一班の鉄人 吉田 建設さん」が挑戦された三十日間に及ぶ過酷な四国遍路の体験と自分自身の心との葛藤についての手記を御紹介することになりました。

心とのふれあい（四国遍路）

一班 吉田 建設

平成二十三年六月十六日から七月十五日までの三十日間で、一番札所霊山寺（徳島県）から八十八番札所大窪寺（香川県）までの約千二百キロメートルを歩いた。

八十八番札所から一番札所までの御札詣りと、和歌山県の高野山お詣りも加えると、千三百キロメートルを越す距離である。一日平均約四十キロメートルを約十二時間半で歩いたことになる。

一回目の歩き遍路は、平成十二年七月から十二月にかけて十回の区切り打ちであったが、その時の夢であった通し打ちを二回目の昨年の歩き遍路で実現して自分が納得した。

「へんろ」しながら、歩ける喜びを全身で感じ、心の安定と通しで打てた何物にも代えがたい充実感が残っている。

る。その体験の一部を書きたいと思う。

四国四県を歩いて、歩き遍路に注がれる皆さんの目が温かい。それは、修験者、修道者、迷える人、悟りを開きたいと努力している人への応援。そして、そのお接待の心は、お接待をする人本人にも向けられているようだ。

全くのボランティア精神で、それは、自らも救われると信じている心ではないかと考えさせられる。

二十一番札所太龍寺と二十二番札所平等寺の間で自分を追いかけてきて、初めてお金を二千円も渡されたときには、「そんなにたくさん！」と絶句して、ドギマギしたが、その人は「いいえ、私は歩いてお詣りすることが出来ませるので、代わってお詣りしてくれる人が居るといふ喜びからのお接待ですの、どうぞ宜しくお願ひします！」と話され、有難くお受けすることにしました。



第26番 龍頭山 金剛頂寺（室戸市）

本手記は、九ページに及び紙面の都合により総てを紹介することができませんが、

遍路を通じて得た人との心の触れ合いの大切さ及び年々衰えていく自分自身の体力と気力との葛藤がリアルに描かれており、高齢化社会における私達に一考を与えてくれる手記と思います。

なお、本手記をご希望の方は各班長を通じて一班の「井手」までお申込みください。コピーをお送りいたします。

久しぶりの再会

二班 牛島 孝之

令和2年九月十五日

モズの高鳴き秋が来て、コーヒー飲みたい喋りた
い・・・

ご無沙汰もこのまま過ぎれば年をこす・漏らすため息身を責めてフクの音頭が踊りだす・コロナ予防はあの手この手で追い払い「予防一式」確保する・・・

対策バッチリ会話を楽しみましょう。

不要不急で過ごした八ヶ月、会えば皆さん目だけバッチリニールック、マスク美人の「コンニチハ」・マスク外せば戻る顔・それでも薄紅引いて女の残りにホッとする・まずはホット



な会報委員が口火きる、お願いがあります・不要不急で二十一期は閉ざしていても「会報」は出すのです。エッセ

原稿を出して下さい、原稿ですよ、お願いします・皆さんの首折れいつもの沈黙パターンそれにしてもポンと膝打つネタがない・だんまりバージョン当たり前・かくなればめぼしき人に狙いつけハニートラップ目の合図・断れば仕返し怖い、後日予定の歌姫要請、付度手伝い仕方なし・それでは今日の座談をネタに原稿とします、よろしいか、皆様には意見なく原稿とすることになりました・・・

・この日座談のエピソードを以下の通り編集し投稿とします。

一、不要不急ってどんなこと・・・
ネエー？日常の不要不急って一体どんなことですか？・突き詰めれば要らないってことでしょ・例えばですよ、歳をとったこの体それ自体不要不急で言うんじゃないの・なるほど

当たってる、さすがだー・だめですよ・そんなことで感心するのが悪い癖・皆さんの活躍その事実を知らずに頷いてはいけません・周りを見ずに自己判断の誤り、それがセルフネグレクトに繋がるのです。(自虐、孤立化)まだまだの楽しみやボランティア福祉活動に地域はあなたを待っているのです・二、コロナとインフルの同時波に備えましょう・「嫁姑」

ネエー今年の冬はコロナとインフルのツイン来襲でつすて、インフル予防接種は早めに予約が良くなってよ、それに加えて食料不足の恐れもあるらしいのよ・食糧難嫌ですよ・そうですねー・ですから今のうちに缶詰などは買い貯めておくが賢明なのですよ・へーそうなんだ、それで貴女のところは何を買ったの？・「モモ缶です」??それってご家族に必要な缶詰だったんですか??それが買物家は家の嫁で「私が好きなんだもん」と言うのよ何でも好き勝手が家の嫁、アー我が家

で言えない嫁たたき・ここで本音を出して「ホツ」と久し振り・大丈夫？

三、・何事にもノンビリさんとセツカチさんがいる・・・

・・・もともとご両人、人の話は聞いていないタイプです・・・

「ネエー最大級の台風一〇号の対応どうしたの」・気象庁の緊急情報でしよう台風一〇号は「過去の記録を超え想定外の被害が予想されます」・それが来る前に時間はまだあります。準備に十分の用意をして下さい」・連日繰り返し報道する・・・それで

(1)・・・ノンビリやさん、どうしたの私ですか？準備ですか？何をしたかしらエエ？・・・アアー思い出しました、そう言えばベランダの物干し竿を下に降ろしました。風はいつか止むと信じていますし、あとはラジオをつけて注意し・・・いつの間にやら寝入ってしまった、気がつけば夜は明けて台風は福岡を抜けていました。被害の状況ですか庭の確認大したことなかった。ぐっす

りと寝覚めのせいで私もすっかり抜けていたと思います。

(2)一方せつかち君・彼はもともと肉体派のピンポン男で機敏が売り

する事為すこと切り替え早い・・・俺はとにかく走ったね、まずは養生テープ、ロープ、シートに水・・・電池類もバッテリー・・・窓には目張りもして少々の暴風は大丈夫、しかし身の安全第一、非常袋抱え最寄りの体育館へ場所取りだったね、ご苦勞な気象庁への恩返しだよ・・・とりあえず体は楽に夜中の暴風に備えていたよ・・・待てば深夜過ぎ、何だこりやこの風最大級なのか、木々が強く揺れる程度ではないか、抱いた非常袋も出番なく朝日も射せば気が抜けたさ、虚しく我が家へ朝帰りである・・・
アアッ色々準備をしたのに、俺の苦勞もロスツたよ、出るは愚痴、気象庁さー台風が海上を走る時と陸上近くに来る時の気圧の違いをメリハリ付けてもらいたいね・・・そこで姉さん、「何事もなし、これが一番の幸せ、結果には

天の恵みと感謝しなさい」・・・突然、天の如き姉の声にセツカチ君竹を割った如く素直に愚痴やめる・・・

四、・・・気象の変わりよう社会も異常に変化・・・

北極の氷山が溶け、山火事は消えず、豪雨に干ばつ・・・これって地球の異常ですよ・・・今年は春も来なかった、外出着出したまま仕舞い込んだだけ、夏の暑さだって例年になく暑さなんてしょ、異常なのよデパートだって衣服類の売上激減よ・・・自粛で外に出ないのだから要らないのね、友や仲間との音信も途絶えて終えた夏だし、お見舞いも謝絶でしょう、異常な変わり方ねーそんなかありえない人から暑中見舞いが来たので驚いた、一〇年のお付き合いい「残暑お見舞い」なんて及びもつかない筆不精、その人が丁寧にも・・・暑さ残りますくれぐれもお体大事にお過ごし下さい、丁寧これ以上なしの言葉使いが想定外・異常である、心の架け橋が薄くなりつつの世を気にしていた

橋が薄くなりつつの世を気にしていたところ、何がキツカケで変身したのか、異常な葉書を嬉しく大事にしている
 五、・・・コロナ圧力で社会は大きく変わっていくのでしょうか

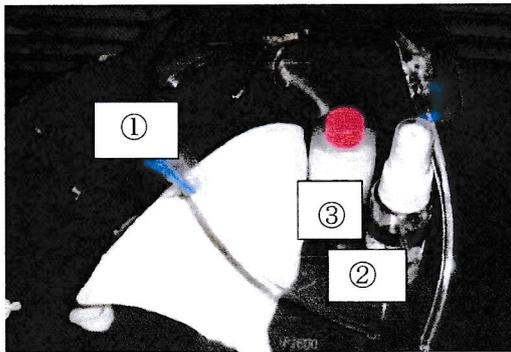
雑談に紛れて未来を開くタネがある
 コロナは自然界に生きる物質、北極の氷山が溶けてもその地下には冬眠のウイルスが目覚めます、森林の小動物にも潜んでいる、この世からウイルスは消えることのない世界であり人類は共生以外に道はない、そのコロナの圧力で社会が変わっていくのは自然の摂理歴史の繰り返しでもある。適応するに人の考えが変わって行くのは必然・先日友の訃報に参列したが、葬送の儀も小さく少なくなつた、結婚披露もレストランで小さく少なくて祝う、そこで地縁・血縁の輪が小さくなっていく思いをしました・オンライン・テレワークの遠隔社会になっていく・爽やか大学の案内もインパクトも弱くなつて寂しい、二期の音沙汰も消えかか

る状況を感じている、そこで会報誌で繋ごうとしているのでしょうか・・・役員はじめ会報委員の皆さんの努力に感謝します。皆さん一緒に笑って楽しみその結果、ウイルスに負けない免疫、抗体を作る集いを願う投稿とします。



介護福祉士 仕事は階段駆け巡り
 筋肉パンパン ボランテニアは被災地球磨・人吉へ調理室片付けや洗い物

私は栄養士、単身赴任の主人が退職帰宅でご苦労さまに感謝し三度の賄い・・・最近疲れてダイエット効果？



楽しくコロナ対策・
 ①フェースフィールド
 ②消毒液
 ③ミネラル・・・など揃えるのに、インターネットで探り、1000円ショップなど走り回りました。

芸能文化・・・日舞民謡で貢献、地域に欠かせぬ存在と言われます。コロナで活動に歯止めがかかり・・・GOTOできず体が中途半端です
 ヨガもやっていますが、これも先生なしでの自宅では、叩かれないとだめな私なのです。

萩の里温泉一泊旅行 宮崎敏夫

昨年二月十八日、山歩き愛好会の解散を兼ねて、一班の方四人を含め総勢十名で、どんよりと曇り小雪の舞う中、阿蘇の道路が通れるか等を心配しながら萩の里温泉に向け、市民会館前を出発しました。

昼前に無事到着し、昼食後グランドゴルフを予定していましたが、グランドコンディションが悪かったため、萩の里温泉の計らいで、急遽予定を変更し雄大な



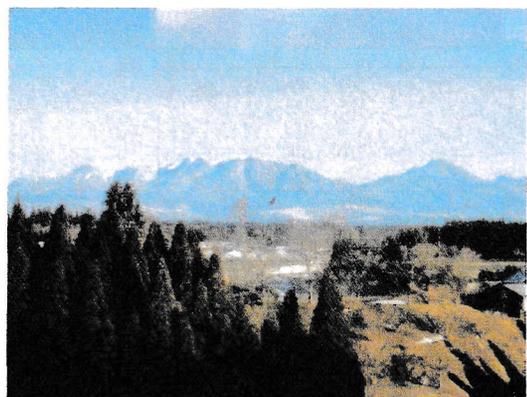
景観の原尻の滝へ向かいました。風が強く少し寒く感じましたが雪もやみ天候も回復し、滝周辺を散策する事ができました。帰り道に竹田市内へ立ち寄り、昔の面影が残る武家屋敷跡等を見学し帰路に着きました。

宿に着いて、ゆっくりお湯にひたり疲れを取って楽しみな夕食となりました。一応カラオケも準備していましたが、お互い話しに夢中になりカラオケは必要ありませんでした。そして当日、誕生日の方がおられるとの事で、景品として持参してきたキャンドルで誕生パーティとなりました。最後はビンゴゲームでお開きとなりました。部屋に戻った後もみんな集って、話に花を咲かせ、いい時間が過ごせました。

翌日は、天候も回復し部屋からは九重連山がくつきり見え、いつまでも飽きる事なく眺めていました。朝食後、七名でグランドゴルフをニラウンド／二回まわり、和気あいあいとした中にも真剣にプレーし、ホールインワンも出て楽しい時間を過ごす事ができました。昼食時に成績を発表し一位から三位までとホールインワン賞、そして萩の里温泉のご厚意により全員に参加賞を提供して頂きました。

午後一時すぎに萩の里温泉を出発し、

マイクロボスの中より九重山、祖母山、阿蘇の山なみをきれいに見る事ができ、途中道の駅「阿蘇」で休憩と買物をすませ、



予定より少し早く午後三時すぎに、無事市民会館前に到着する事ができました。

今回の旅行は、前日より天候が悪く当日参加される方も含め実行できるか心配しましたが、一班の方にも参加して頂き、予定通り行く事ができました。

今後は二十一期OB会も減少していく事が考えられますので、班を越えての活動として旅行、史跡めぐり、神社仏閣、オルレコース等を計画していきたいと考えていますので、皆さんにも行先等を提案して頂きたいと思えます。参加された皆さんお疲れ様でした。

「このような世の中だからこそ、今一度振り返ってみるのも良いのでは」と、某会報委員からいただきました。

人の道

忘れてならぬものは 恩義

捨ててならぬものは 義理

人に与えるものは 人情

繰り返してならぬものは

過失

通してならぬものは 我意

笑ってならぬものは

人の失敗

聞いてならぬものは

人の秘密

お金で買えぬものは 信用

編集後記

令和二年はコロナ禍に翻弄された一年でした。二十一期会のみならず各班とも活動が制限される大変な状況になりました。そのような中でも、特別寄稿をはじめ幅広い原稿が集まり、節目となる第十号を発刊することができました。会員皆様のご尽力に感謝申し上げます。

これからも班活動報告に限らず、文芸作品や身近で起こった出来事なども寄稿していただきまして、会報が会員皆様の音信確認の役割も果たしていければと思っています。

疫病退散



N.M

これからもコロナウイルスに負けない生活スタイルを模索し、寛容の心を持って毎日元気に過ごしましょう。なお、一月十四日に熊本県独自の緊急事態宣言が発出されましたことから一月二十八日に予定しておりました会報校正作業を取り止めて発行するに至りました。内容に誤字脱字等がありました場合は、現下の情勢に鑑み、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

(文責：笠)